



2017年7月10日
六本木アートナイト実行委員会

— 非日常の世界へ誘う、一夜限りのアートの饗宴 —
六本木アートナイト 2017

開催テーマは「未来ノマツリ」に決定、メインビジュアルも完成！
メインプログラム・アーティストに蜷川実花氏を迎え、多彩なアートプログラムを展開
地域のコミュニティと作品を作る“東南アジア・プロジェクト”も始動

六本木アートナイト実行委員会は、六本木の街を舞台にしたアートの饗宴「六本木アートナイト 2017」を2017年9月30日(土)から10月1日(日)の2日間開催いたします。

2009年より始まり今回で8回目※を迎える「六本木アートナイト」は、六本木の街を舞台とした一夜限りのアートの祭典です。今では東京を代表するアートイベントへと成長し、コアタイムとなる日没から夜明けまでの時間帯にも、街を回遊する人の波が絶えることなくエネルギーで夢のような時を過ごせます。

夜通しアートに包まれる「六本木アートナイト」の今回のテーマは「未来ノマツリ」。メインプログラム・アーティストには、写真家・映画監督として幅広く活躍する蜷川実花を起用いたします。縦横無尽の活動で圧倒的な人気を誇る蜷川実花、いまやその人気は海外にも拡大し、特にアジアの国々では多くのファンを獲得しています。写真集や、雑誌その他のメディアでの露出はもちろんですが、台湾、香港、マレーシアなどでは展覧会も開催され多数の観客を集めています。蜷川実花が贈る美しく妖艶な世界にご期待ください。

また、今回は初の試みとして、東南アジアにゆかりのある日本人アーティストや、現代アートに沸く東南アジアより注目アーティストを招聘して様々な人々と協働しながら作品を制作・発表するプロジェクト「東南アジア・プロジェクト」も始動します。東南アジアのアーティストが“祭”をテーマに地域のコミュニティメンバーと協働して作品を制作、「六本木アートナイト」本番で作品を発表する予定です。国内外で活躍する気鋭のアーティストが集結し、夢のような一夜をお届けします。 ※2011年は東日本大震災により中止

<六本木アートナイト2017 テーマ:「未来ノマツリ」>

「祭(マツリ)」という言葉から、どのようなことをイメージされますか。一般的には「感謝や祈り、慰霊のために神仏および祖先をまつる行為」と定義されていますが、近年は音楽フェスティバルやアートフェアも広く祭と位置付けられています。共通しているのは、人々が集い非日常的な体験を共有し、文化を未来へ伝えること、つまりひとつのコミュニケーション・プラットフォームと言えるでしょう。

今年の「六本木アートナイト 2017」は、アジアを中心に世界中から彩り豊かなアートやパフォーマンスが集まり、新しくクリエイティブな「未来ノマツリ」を目指します。

六本木アートナイト 2017 メインビジュアル決定



Photo by Mika Ninagawa

<六本木アートナイト 2017 メインビジュアル>

「六本木アートナイト2017」のテーマ「未来ノマツリ」を表現したメインビジュアルが完成。

メインビジュアルは、グラフィックやモーショングラフィックを中心に、多様な領域で活動するgroovisions(グルーヴィジョンズ)が担当しました。六本木の街中に突如現れる幻想的なシーンを連想させる「六本木アートナイト2017」のアイコンとして、各所で展開してまいります。





メインプログラム・アーティスト 蛭川実花



メインプログラム・アーティスト
蛭川実花

< 蛭川実花プロフィール >

写真家、映画監督

木村伊兵衛写真賞ほか数々受賞。映画『さくらん』(2007)、『ヘルタースケルター』(2012)監督。映像作品も多く手がける。2008年、「蛭川実花展」が全国の美術館を巡回。2010年、Rizzoli N.Y.から写真集を出版、世界各国で話題に。2016年、台湾の現代美術館(MOCA Taipei)にて大規模な個展を開催し、同館の動員記録を大きく更新した。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事就任。

www.ninamika.com/

六本木アートナイトでは、今回のテーマである「未来ノマツリ」に共鳴した複数のインスタレーションを計画中で、蛭川実花の真骨頂である強烈かつ独特の色彩感と、蛭川実花が持つ様々なモチーフが存分に展開される予定です。それらの作品は、今回の六本木アートナイトにおける蛭川作品以外のもうひとつの軸である「アジア」をテーマとする作品群と相まって、2日間、六本木の街の風景を変えていくことでしょう。展開場所としては、毎年アートナイトの核として様々なイベントが展開される六本木ヒルズアリーナをはじめとして複数の場所でのアイデアが検討されています。

東南アジア・プロジェクト

六本木アートナイト 2017の注目プログラムの一つ「東南アジア・プロジェクト」。本プロジェクトは、東南アジアのアーティストや東南アジアにゆかりのある日本人アーティストを招聘し、様々な人々と協働しながら作品を制作・発表するプロジェクトです。ワークショップを通じて地域の歴史や文化資源のリサーチを実施することで、文化活動活性化、地域の潜在コンテンツ顕在化なども目指しています。東南アジアで活躍するアーティストが、六本木の街や人々と関わりながらアート作品作りを通じて六本木の街を盛り上げます。「未来ノマツリ」をテーマに地域のコミュニティメンバーとアーティストが創り出す「六本木アートナイト 2017」でしか見ることのできないアート作品に注目です。

< ナウイン・ラワンチャイクン(タイ) >

ナウイン・ラワンチャイクン(Navin Rawanchaikul)

《Tales from the Land of Six Trees》

《六本木物語》

タイのアーティストのナウイン・ラワンチャイクンが六本木を舞台にした映画や絵画、ダンスなどを制作します。六本木の人達が登場しながら、この街の様々な表情と魅力が映し出されます。

< ネオ・アングノ・アーティスト・コレクティブ(フィリピン) >

ネオ・アングノ・アーティスト・コレクティブ(Neo Angono Artist Collective)

《The Roppongi Gigantes Project Walking Among Giants: Them Are Us Too》

《巨人と歩く:彼らは私たちと同じ(六本木ヒガンテスプロジェクト)》

巨人祭で有名なフィリピン・アングノのアーティスト集団。六本木を舞台に、アートナイトでしか見ることができない巨人祭を開催します。

< 国立奥多摩美術館(日本) >

国立奥多摩美術館(The National Museum of Art Okutama(MOAO))

《The National Museum of Art, Okutama, 24h Human Clock(Asia version)》

《国立奥多摩美術館 24時間人間時計 ~アジア編~》

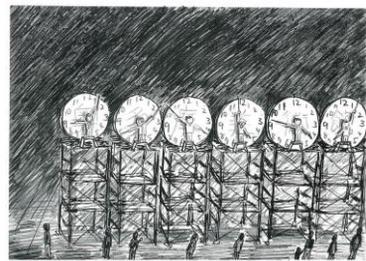
2012年に東京都青梅市に発足したアーティスト・コレクティブ「国立奥多摩美術館」。メンバーの多くは、東南アジアで作品発表の経験があります。今回はアジアをテーマに人が時計の針となる「24時間人間時計」に挑戦します。



《OK Tower》
OK Tower, 2016
Installation view at Nishiura village, Megijima, Japan
Photo by Navin Production



《Angono Gigantes, Big and Small》
photo credit : photo walk Philippines/whatsnewph.com



《24時間人間時計のためのドローイング》
《Drawing for 24h Human Clock》



六本木アートナイト 2017 開催概要

- 正式名称： 六本木アートナイト 2017
- 開催趣旨： 「六本木アートナイト」は、生活の中でアートを楽しむという新しいライフスタイルの提案と、大都市東京における街づくりの先駆的なモデル創出を目的に開催する、一夜限りのアートの饗宴です。様々な商業施設や文化施設が集積する六本木を舞台に、現代アート、デザイン、音楽、映像、パフォーマンス等の多様な作品を街なかにも点在させ、非日常的な一夜限りの体験をつくり出す本イベントは、東京を代表するアートの祭典として2009年3月にスタートし、年々発展を続けております。
- 日時： 2017(平成29)年9月30日(土)～10月1日(日)
 <コアタイム>9月30日(土)17:27【日没】～10月1日(日)【日の出】05:36
 ※コアタイムはメインとなるインスタレーションやイベントが集積する時間帯です。
- 開催場所： 六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース
- 入場料： 無料(但し、一部のプログラム及び美術館企画は有料)
- 主催： 東京都、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)、港区、六本木アートナイト実行委員会【国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21_21 DESIGN SIGHT、森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合(五十音順)】
- 公式サイト： <http://www.roppongiartnight.com>
- Facebook： <https://www.facebook.com/RoppongiArtNight/>
- Twitter： https://twitter.com/r_artnight
- Instagram： https://www.instagram.com/roppongi_art_night_official/

※内容は一部変更になる可能性があります。

六本木アートナイト 過去のメインプログラム・延べ鑑賞者数

2009

55万人



ヤノベケンジ《ジャイアント・トラヤン》

2010

70万人



椿昇《ビョファ・フラワー》

2012

70万人



草間彌生《愛はとこしえ、未来は私のもの!》

2013

83万人



日比野克彦《TRIP→プロジェクト》

2014

70万人



西尾美也《人間の家》

2015

78万人



齋藤精一
《アートトラックプロジェクト ハル号 アケボノ号》

2016

63万人



名和晃平/西島清順/デージーバルーン
メインプログラム

※2011年は「東日本大震災」により中止

報道関係のお問い合わせ

六本木アートナイト実行委員会 広報プロモーション事務局

たかもといくよ かいはとみ とみさきあやの

担当：高本育代・甲斐仁実・富寄綾乃

TEL: 03-4477-5556 FAX: 03-5469-0680 mail: roppongiartnight2017@pr01.com